

平成30年第2回(6月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|----|-----|--------|
| 1 | 6番 | 寺田幸弘君 |
| 2 | 3番 | 嶺岡慎悟君 |
| 3 | 9番 | 藤澤恭子君 |
| 4 | 19番 | 山本行男君 |
| 5 | 16番 | 山本裕三君 |
| 6 | 5番 | 松浦昌巳君 |
| 7 | 10番 | 榛村航一君 |
| 8 | 4番 | 鈴木久裕君 |
| 9 | 14番 | 窪野愛子君 |
| 10 | 7番 | 勝川志保子君 |
| 11 | 8番 | 富田まゆみ君 |
| 12 | 20番 | 鷺山喜久君 |

平成30年第2回(6月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

6/25 AM 6番 寺田幸弘君

3番 嶺岡慎悟君

PM 9番 藤澤恭子君

19番 山本行男君

16番 山本裕三君

6/26 AM 5番 松浦昌巳君

10番 榛村航一君

PM 4番 鈴木久裕君

14番 窪野愛子君

7番 勝川志保子君

6/27 AM 8番 富田まゆみ君

20番 鷺山喜久君

一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	寺田幸弘	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

1 松井市政について

(答弁：市長)

松井市政も10年目の区切りの年を迎えた。2016年から2025年までの第2次総合計画は、3年目に入り、重点施策として、(1) 掛川への新しいひとの動きをつくる (2) 掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる (4) 明日の掛川をつくり豊かで潤いのある安心な暮らしを守る、という4つの戦略の柱を掲げ、さらに具体的な本年度の取り組みが示されている。この取り組み内容等について伺う。

- (1) 松井市長の10年間の市政について、市長の描いてきた、中・長期的な施策、短期的施策の進捗・達成状況と今後の展望について伺う
- (2) 「歴史的風致維持向上計画」に基づく事業を推進する中で、三熊野神社大祭の国の重要無形民俗文化財指定の取り組みへの市の協力体制について伺う
- (3) 公共交通対策について、掛川大須賀線が10月から本格運行に移行される。そこで、掛川区域と大須賀区域とのネットワーク強化の効果予測について伺う
- (4) 力強い農業の確立では、担い手の創出や組織化・法人化の支援、機械の共同利用、農地の集積・集約及び複合経営の導入支援を挙げている。これらの具体的施策を伺う
- (5) 本谷区入り口の橋幅は地域住民の長年の要望であるが未整備となっている。また、舗装道路の白線が消えてしまい危険な箇所も多くみられるが、そのことについてどのように考えるか伺う
- (6) 人生100年時代を見据え、多くの健康づくりの推進事業が実施されているが、心身共に健康で長生きをしなければいけない。認知症にならないための脳活に関する取り組み事業について伺う
- (7) 掛川市の人口動態は、平成17年合併時119,739人が平成30年3月末117,605人となり、掛川区域2,718人増・大東区域3,035人減・大須賀区域1,817人減となっている。大東区域・大須賀区域の人口減少の要因とその対策について伺う

2 鳥獣被害対策について

(答弁：市長)

近年、全国的に農作物や人への危害など、鳥獣被害が問題となっている。本市もやはり、年々、全域で被害が拡大しており、さらなる鳥獣被害対策が必要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 昨年度、市内全域の有害鳥獣捕獲数はイノシシ614頭、ハクビシン20頭、アナグマ27頭、カラス19羽と非常に多いが、市の対応について伺う
- (2) 有害鳥獣の駆除には、地元の猟友会の協力が不可欠である。免許更新、新規加入者の免許取得、講習費などの助成制度を創設する考えがあるか伺う
- (3) 猟友会の後継者不足の対応策として、鳥獣被害防止措置法に基づき、市が被害防止計画を作成し、非常勤公務員の身分となる「鳥獣被害対策実施隊」を設置する考えがあるか伺う

3 教育の現状について

(答弁：市長、教育長)

「教育・文化日本一」を目指す本市の取り組みは、子どもたちの未来のために何をすべきか、何ができるのか、といった視点にたち、子どもたちの健全育成のため、様々な特色を持った教育施策を行っている。しかし、その反面、教育に携わる教職員の多忙解消も大きな課題となっている。そこで、掛川市の教育に関する事項について伺う。

- (1) 児童生徒が楽しく、意欲的な学校生活を送るためには「いじめ」は絶対に許されない。近年本市で保護者や児童生徒から相談事例があったか伺う
- (2) 市内の小中学校で不登校の生徒数とその対応について伺う
- (3) 中学校は今年度から、引率のできる部活動の外部指導員を採用したが、それぞれの部活動に割り当てられたのか。また、その効果について伺う
- (4) 今年度、本市幼稚園の公立教員数は全職員166人で、正規職員61人、非常勤職員105人である。平成29年度の私立教員数は全職員195人で、正規職員133人、非常勤職員62人である。公立教員の正規職員数と非常勤職員の比率が約1対2と逆転していて、正規職員があまりにも少ないと思うが考えを伺う
- (5) 新教育課程、特に小学校低学年から英語授業導入による時間増加に伴う時間確保は、どのようにしていくのか伺う
- (6) 横須賀高校と池新田高校の再編統合が正式決定となってしまった。3年後には候補地がどちらかに決定する予定である。これからの市長による県への働きかけについて伺う

一般質問通告要旨

議席番号	3	氏名	嶺岡慎悟	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 高天神城址の整備及び活用について (答弁：市長、教育長)

昨年4月6日に高天神城が「続日本100名城」に認定され、本年4月6日より続日本100名城スタンプラリーが始まった。5月末の段階で1,155名もの観光客が県内外からスタンプを押しに訪れている。しかし、高天神城址の整備は十分とは言えず、大雨被害の復旧や遺跡の整備等多くの課題が残されている。そこで高天神城址の整備及び活用について伺う。

- (1) 過去に文化庁の認可が下りず、階段の手すりを整備することができなかったが、来年4月1日に文化財保護法が大幅改正され、文化財の活用が推進される。再度、階段手すりの整備を検討する考えがないか伺う
- (2) 平成11年に基本整備計画を作成したが、合併後、整備は白紙状態である。今後の高天神城址の整備について考えを伺う
- (3) 昨年の掛川三城ものがたり展では、借用したジオラマが最も高い評価であった。そこで、掛川市として六砦を含めた高天神城ジオラマを製作し、訪れる方の理解を深め、魅力をPRしてはと考えるが、見解を伺う
- (4) 旧大須賀町が姉妹都市を結んでいた旧岩村町、現在の恵那市には日本三大山城の岩村城(霞ヶ城)がある。掛川城(曇霧城)や高天神城など、三城ものがたりと連携した取り組みができないか伺う

2 城東地区の施設整備について (答弁：市長、教育長)

現在城東地区では、幼保再編による「きとうこども園」の計画、学園化構想のモデル地区として小中一貫教育の検討が行われ、2020年4月からは、東京女子医科大学の看護学部1年生が河田町キャンパスに移ることが決まり、城東地区の教育環境は大きな転換期を迎えることとなる。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 東京女子医科大学大東キャンパスの今後の展望について、掛川市としてどのような連携を考えているのか伺う
- (2) きとうこども園は、東京女子医科大学大東キャンパスの敷地や校舎を活用してはどうかと考えるが、市長の考えを伺う
- (3) 吉岡彌生記念館について、常設展の入場料を無料とし、来館者を少しでも増やす取り組みをするべきと考えるが、教育長の考えを伺う
- (4) これまでの城東学園の小中一貫教育の検討状況を踏まえ、現在の市長の考え

を伺う

- (5) 城東学園新たな学園づくり地域検討委員会では、まだまだ小中一貫校について考えがまとまっていない。現在は、教育委員会が主体となって取り組んでいるが、公共施設マネジメントの考え方も含めて、市長部局と教育委員会が一丸となって取り組む必要があると考えるが、市長の考えを伺う
- (6) 広域避難所でもある土方小学校の校舎及び体育館は、現在、土砂災害警戒区域の指定が進められている。防災対策としても、体育館の建て替えは急務といえるが考えを伺う

3 市民参画の推進について

(答弁：市長)

平成25年4月に掛川市自治基本条例が制定され、第17条にて、市民等からの意見聴取について規定をし、掛川市意見公募手続等実施要綱にて運用されている。しかし、具体的な手法については、担当課に委ねられているのが現状である。そこで、市民参画の手法について伺う。

- (1) 市民参画の手法を具体的に規定した「静岡市市民参画の推進に関する条例」や「牧之原市市民参加条例」のような市民参画条例を制定してはどうかと考えるが、市長の考えを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	9	氏名	藤澤 恭子	質問の方式	(一問一答)・一括)
------	---	----	-------	-------	------------

1 総合型ボランティア活動推進構想について

(答弁：市長)

この先20年30年後の人口減少、超高齢社会を見据え、今後はより、市民一人一人の市民力が必要とされる時代になる。「希望がみえるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の将来像はあるものの、掛川市第2次総合計画を市民と共に遂行する手段に欠けている。教育や社会参画、人材育成、健康づくり、コミュニケーションの向上などといった、市民力の底上げをプランニングすべき体制づくりとして、ボランティア活動を推奨し、市民と共に課題解決を図る組織が必要である。

また、これを掛川市民のみならず、全国に発信することにより、交流人口、定住人口の増加も期待し、希薄化したコミュニティや住民同士の絆の再構築にも尽力すべきである。ワークライフバランスのとれた、人生100年を、市民一人一人が生きがいを感じ、心豊かに過ごすことができる社会の構築は、一刻も早く取り組むべき課題であると考え、ボランティア活動を融合させた、掛川市ならではの新たなシティセールスの展開を期待し、以下の点について伺う。

- (1) 横城郡のようなボランティアポイント制度の導入と総合ボランティアセンターの構築を検討できないか伺う
- (2) 全市民のみならず、全国民対象に、掛川市でのボランティア活動にポイント制を導入できないか伺う
- (3) 人口減少による人手不足に、どのような対応を検討しているのか伺う
- (4) 様々な施策に市民総ぐるみとうたわれているが、市民に届いていない現状が多い。市民が現状と課題を理解しやすく、かつ具体的な行動に移しやすい仕組み作りが必要だと思うが市長の見解を伺う
- (5) ボランティア推奨のまちとして、全国へ向けたボランティアの募集や受け入れを検討し、農観連携やニューツーリズムをし、地域ブランディング・マーケティングに繋げるシティプロモーションを検討してはいかがか

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	19	氏名	山 本 行 男	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	---------	-------	-----------

1 職員の不祥事について (答弁：市長)

静岡県警は4月11日、児童買春の疑いで市の職員を逮捕したと報じた。市は6月5日に、この職員を懲戒免職処分したと発表し、監督責任を問い管理職3人も厳重注意したと報じられた。松井市長は「地方公務員としてあるまじき行為。市民の信頼を著しく失わせた。」とコメントを出した。市長のコメントのとおり職員による不祥事は絶対にあってはならないし、今後もあってはならない。そこで、市長の考えを伺う。

(1) 再発防止に向けての対策について伺う

2 大池地区における大規模集客施設の計画について (答弁：市長)

近隣市町では、郊外型の大規模な商業施設計画が相次いで発表されている。毎年の市民意識調査では、掛川市に住んで満足だという方々が80%を占めている中で、市内に商業施設を求める声が上位にあり、商業施設の充実が強く求められていて市民の声に応えていかなければならない。その解決策として、市長は平成26年2月の全員協議会並びに定例記者会見で、愛知県にあるユニー株式会社が大池地内で事業展開しているアピタ掛川店が築20年を経過し、今後の市内での立地のあり方について協議を進める中で、ユニー株式会社から、アピタ掛川店別棟計画と周辺環境整備として、隣接する天竜浜名湖鉄道の新駅設置計画などの報告があった。しかしその後、この計画についての情報をあまり聞かなくなった。そこで、以下3点について市長に伺う。

(1) ユニー株式会社経営陣の人事などがあったが、その後の大池地域の大型商業施設の動向について伺う

(2) 天浜線新駅設置計画について伺う

(3) 商業施設の誘致には土地利用計画なども含め、少なくとも3年から10年位の期間が必要である。その観点から将来を見据えて、現在、他の商業施設などの計画があるのかを伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	16	氏名	山 本 裕 三	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 中東遠地域障がい者歯科診療の今後に関して (答弁：市長)

中東遠総合医療センター開設にむけた医療機能懇話会において、小笠掛川歯科医師会と当時の新病院設立事務組合間で、障がい者歯科の単独での診療所開設について検討され、結果として、月に2回、口腔外科外来で行うかたちとなった。平成25年6月から診療が開始され多くの方に利用されており、平成28年度は利用者延べ診療数は年間147回、歯科医師会関係の従事者数は延べ238人となっている。総数からもわかるように、地域の障がい者の方々に必要とされ、地域の歯科医師の先生方そして関係する方々がその診療事業を支えている、まさに掛川市が推進する「協働のまちづくり」の精神に溢れた素晴らしい活動であるとともに、志ある先生方の障がい者歯科の学びの場にもなっている。そんな中、平成29年度で県の補助事業が終了し、平成30年度はあくまで緊急的な財政措置として予算措置されたが、平成31年度以降の方針に関しては不透明である。平成28年4月に障害者差別解消法が施行されている現在において、医療圏域の障がい者歯科診療を本市としてどうしていくかに関して以下の質問を行う。

- (1) 掛川市として、平成25年6月から現在に至るまでの中東遠総合医療センターでの障がい者歯科診療に関して、どのような評価をしているのか伺う
- (2) 中東遠地域の障がい者歯科診療を将来に向けて今後も継続し、更に充実するために、掛川市として方向性を示すべきと考えるが見解を伺う

2 公共発注工事の施工期間の平準化に関して (答弁：市長)

国土交通省は、基礎自治体の発注工事で施工時期の平準化を推進する法制度の検討に入った。施工期間の平準化は人材不足、特に若手の採用難による従業員の高齢化に苦しむ施工業者にメリットがあることはもちろんのこと、発注担当職員の事務作業の集中回避、市民においては工事实施が安定し実施されるメリットがある。

中小企業支援条例を制定した本市においては、条例内にある「行政の責務」において、公共発注工事の施工期間の平準化を県下市町の先陣をきり行っていく必要があると考え、以下の質問を行う。

- (1) 本市のこれまでの施工期間の平準化に関しての取り組みを伺う
- (2) より平準化を進めるためには、どのような取り組みが必要か伺う

- (3) 平準化に伴う想定される課題は何か伺う
- (4) 地区要望においても工事期間の平準化は可能であるか伺う
- (5) 水道工事においても工事期間の平準化は可能であるか伺う
- (6) 維持管理業務においても工事期間の平準化は可能であるか伺う
- (7) 地元建設業者の若手採用難は今後の掛川市の安心安全を守るうえでも課題である。工期において、工事業者の休日を加味した積算、または建設業者の若手人材確保のための活動に関して評価が必要と考えるが見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	松浦昌巳	質問の方式（一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括）
------	---	----	------	---

1 掛川茶ブランドの再構築について （答弁：市長）

昨今、深蒸し茶の効能や掛川茶の人気は全国的にも高まり、注目されている。しかし、高級・中級茶の需要が伸び悩み、設備投資や肥料、農薬の経費率は高くなり、生産農家は、有機栽培や被覆茶など努力はしているものの、これからの茶業に対し、不安材料が山積状態である。今後の茶業振興を進める中で、掛川茶ブランドの再構築と支援策を考えるべきと思うが市長の所見を伺う。

- (1) 現在、50%以上の掛川産茶葉が入っていれば掛川茶と認めているが、掛川のプライドにかけ掛川茶の定義を見直すべきではないか、所見を伺う
- (2) 掛川の茶業生産者は、個人または協同組合等で各々が有機栽培や被覆茶そして、てん茶製造を行なっている。これらの栽培は新たに投資が必要になるが、掛川茶振興のために積極的に支援をすべきではないか伺う
- (3) 市長は掛川茶のキーワードを「美味しい」、「健康」、「環境」と言っているが、これに「品質」をプラスして、掛川茶ブランドを構築するべきと思うが、所見を伺う
- (4) 掛川茶ブランド構築にあたり、掛川茶のロゴマークの策定とPR戦略や販売戦略について、どのように考えるか伺う

2 掛川市内4高校とのパートナーシップ協定について （答弁：市長）

掛川市内には4つの高等学校がある。街中での夏祭りのダンスパフォーマンスや掛川城をバックにしたプロジェクションマッピングなど、高校生が参加するイベントは数多くある。しかし、それは一過性であり、点と点の繋がりに過ぎない。「あなたの夢、描いたつづきは掛川で。」高校生が自ら将来を描いて、この掛川でその夢を叶えられるように、行政と高校が密接に関わっていくことが重要と考える。そして、働き方改革で部活動の短縮などが進むことが考えられる中、学校以外で学ぶ機会をつくることができず、市長の所見を伺う。

- (1) 掛川市にある数多くの企業、事業所を高校生にPRし、インターンシップや企業訪問ができやすくし、掛川で仕事をしたくなる仕組みづくりが必要と考えるが所見を伺う
- (2) 掛川城の急な階段や天守閣は、上りたくても上れない人もいる。そこで、高校生を中心に「VR掛川城」を制作し、これまで見たことのない景色を多くの

市民に見せてあげることができないか伺う

- (3) 高校生が参加しやすい時間帯に開催するセミナーやイベントができないか伺う
- (4) 多くの高校には、アマチュア無線のクラブがあり、掛川工業高校には無線機や大きなアンテナなどの無線設備も完備している。災害時には、無線は有効な通信手段となるため、人材の活用も視野に入れた準備ができないか伺う
- (5) 掛川市のまちづくりに高校生が参加するようになると、拠点となる場所が必要となるが、掛川駅周辺で高校生の居場所作りができないか伺う
- (6) 掛川市と4つの高校とでパートナーシップ協定を結び、協働して施策が実施できないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	榛村航一	質問の方式 (一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	--

1 森林環境譲与税の使途について (答弁：市長)

国の税制改正大綱では、「間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用」に財源を充てることとされていることから、これを踏まえ譲与税の使い道として、森林整備、人材確保、普及啓発の3つの角度から伺う。

- (1) 今年度以降の森林環境譲与税について、どのような森林整備を行っていくことを想定しているのか、現時点での考えを伺う
- (2) 林業振興係の再設置を含め、現場の人材育成と併せ、森林行政の担い手確保にも一定額を充てていくべきではないかと思うが、所見を伺う
- (3) 地元木材を使って木に親しむ子供を育てる「木育」についても、森林環境譲与税から一定額を充ててはどうかと考えるが、所見を伺う

2 静岡茶草場世界農業遺産センターの整備方針について (答弁：市長)

本年度の当初予算に、休憩所整備事業1億995万円を計上した。「東の富士山、西の粟ヶ岳・茶草場」という意識で、予算規模としては、東の富士山の30分の1ではあるが、その分、志の高さは30倍という姿勢で、積極的に取り組んでいくべきと考え、以下について伺う。

- (1) 休憩所周辺を含めた粟ヶ岳山頂について、現時点ではどのような考え方で整備を進める方針か、所見を伺う

3 掛川城・報徳社・松ヶ岡の一体整備について (答弁：市長)

5月、「掛川の木造建築物群」は、文化庁から日本遺産の追加認定を惜しくも逃してしまった。「武士の掛川城、農民の報徳社、町人の松ヶ岡」を3点セットとして打ち出すことで、その歴史的・文化的な意義が伝わりやすくなり、評価を高めることができるのではないかと考え、以下について伺う。

- (1) 現在の国の重要文化財である大日本報徳社・二の丸御殿から掛川城を通り、未来の国の重要文化財松ヶ岡へ人の流れを誘導するべく、掛川城・報徳社・松

ヶ岡を一体とした整備、特に、「緑の精神回廊」の再整備が必要と考えるが、所見を伺う

4 認知症・徘徊対策について (答弁：市長)

警察庁によると、一昨年、平成28年度の全国の行方不明者は、約8万5千人、このうち2割強、約2万人が70歳以上の方であった。掛川市でも、認知症の高齢者の行方不明が続いている中において何らかの対策が必要と考え、以下について伺う。

(1) 掛川でも見守りネットワークの構築を進めていると思うが、認知症の方の徘徊を想定した見守りネットワークの強化について、市の方針を伺う

5 待機児童対策について (答弁：市長)

今年度、46名の待機児童が発生した。待機児童対策の強化が急務であると考え、以下の点について伺う。

(1) 平成29年度から、掛川流子育て応援事業「スキンシップのすゝめ」が始まり、愛着形成に大変重要である0～2歳の時期のスキンシップを本気で推進している。そこで、待機児童の解消を考えるに当たって、保育所を利用せず、家庭で子育てすることを選ぶ世帯を補助する、という考え方もあると思うが、所見を伺う

(2) 現在の市の同居応援事業は、新たに同居を開始することを条件にして、住宅の新築・リフォーム・購入を支援する形をとっているが、全国の自治体をみると、同居ではなく「近居」の場合でも支援を行ったり、一時金による補助とは別に住宅ローンの金利を引き下げたりといった事例が増えてきている。現行の同居応援事業をさらに拡充し、近居支援や住宅ローン支援などに制度を拡げることで使い勝手をよくするなど、同居応援事業の今後の方向性について、所見を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	4	氏名	鈴木久裕	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

1 認知症高齢者の見守りについて (答弁：市長)

認知症徘徊者が行方不明となる事案が少なからず発生している。

要支援、要介護の高齢者のうち、特に認知症で徘徊傾向のある在宅の見守りは、家族にとって大きな負担であり、一旦行方不明ともなれば地域社会にとっても大きな問題となる。

より確実な見守り・徘徊感知と見守る側の負担軽減のため、支援策充実が望まれるが、市長の考えを伺う。

- (1) 掛川市が実施している「徘徊高齢者伝言板システム」について、どのように普及を進めてきたか、普及の進捗度についてどのように評価しているのか伺う
- (2) 種々ある支援対策のなか、現在導入している制度の長所と短所について、あらためてどう評価しているか、今後の普及展開の方向性も併せて伺う
- (3) より確実な徘徊感知のため、GPSを活用した見守りシステムの利用にも助成していくべきと思うが、見解を伺う

2 上水道基幹施設の耐震対策について (答弁：市長)

掛川市は、上水、農水、工水ともに大井川の水に頼っている。

上水道の耐震対策については、市の事業として管路更新事業が進められているところである。しかし、地震等により大井川広域水道企業団が管理している取水や浄水、送水管など基幹施設が損壊すれば、市への送水はストップし、断水は長期間に及び、市民生活をはじめあらゆる分野に大きな影響を被るおそれがある。基幹施設の耐震化も極めて重要である。

そこで、上水道基幹施設の耐震対策と施設更新計画等について伺う。

- (1) 川口取水工の耐震化の進捗状況と今後の見込みについて伺う
- (2) 平成26年度に策定された「施設更新基本計画」では、現在40%程度である送水管の耐震化率を将来的に100%としようとするものだが、着手は当初より先送り状態となっていることについて見解を伺う
- (3) 施設更新基本計画では、当市に関係する部分の優先度が高いとされている。当市への水供給を確実なものにするためにも早期の事業着手が望まれるが、働きかけなどを行っていくのか、方針を伺う
- (4) 予備水源を含め、自己水源のあり方に対する今後の方針について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	窪野愛子	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 男女共同参画社会の実現に向けた本市の取り組みについて (答弁：市長)

本市は平成19年に第1次、平成24年に第2次掛川市男女共同参画行動計画を策定し、男女共同参画社会の推進を図ってきた。平成28年3月には掛川市男女共同参画条例の改正を行い、市民一人ひとりの男女共同参画に対する正しい理解と、意識改革を更に推進するために、平成29年度から5ヶ年を計画とする「第3次掛川市男女共同参画行動計画」を策定した。本年度、企画政策課男女協働係へと所管の変更をし、全庁的に男女共同参画社会の推進を目指すということについて伺う。

- (1) 昨年度の市民意識調査の結果では、市民の男女共同参画に対する意識は依然高まっていない。制度・慣行の見直しや、固定的な役割分担意識の脱却を図るには、低年齢層から世代に応じた人権尊重・男女平等を推進する教育・学習の機会充実が重要である。今後、更なる取り組みが必要と思うがいかがか
- (2) 女性管理職の積極的登用を図るためには、職員採用時点から、スキルアップのための学習や研修の機会の提供、職場環境の改善等が必要と思うが、外部登用も視野に入れた、女性管理職育成には今後どのように取り組んでいくのか伺う

2 本市の未来ある子どもたちへの感染症予防対策について (答弁：市長)

本年度、「掛川の未来のために！子育て環境充実」予算と銘打ち、認定こども園施設整備事業や子ども医療費助成等、様々な施策を展開している。本定例会には10月1日から導入が予定される、高校生相当年齢への医療費助成のための補正予算が上程された。本市の子育て環境の整備が着実に図られていることを受け、感染症予防費（個別接種事業費）の拡大について伺う。

- (1) 本市では現在、任意予防接種となっている「おたふくかぜ」のワクチン費用について、公費助成の対象とする考えはないか見解を伺う

3 本市中学生の英語力「聞く・話す・読む・書く」向上について

(答弁：教育長)

平成27年、文部科学省は中高生に向けた「英語力向上推進プラン」を策定し、平成29年度までに中学3年生卒業段階で、英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合が50%に達することを目標に掲げた。文部科学省本年4月の発表によると、昨年度実施した全国英語教育実施状況調査、平成29年12月1日時点の集計では、静岡県の中学3年生の英検3級以上の取得者数は40%を切っていた。今後、目標とする50%に達するための本市の取り組みについて伺う。

- (1) 昨年度、市内中学2年生1,055人が「英検 I B A」を受検したが、その結果から見えてきた課題と対策について伺う
- (2) 英語教育実施状況調査によると、目標値に達した福井県の中学3年生では英検受検経験者は96.4%、英検3級取得者数は56.1%であった。本市の受検者は22%程にとどまり、英検3級以上の取得者は20%を切っていた。今後、生徒の英語力および学習意欲の向上を図り、目標とする中学校卒業段階に英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合50%を目指すために、英検受検費用助成の考えはないか伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	7	氏名	勝 川 志 保 子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input checked="" type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	-----------	--

1 条例の理念を実現する中小企業振興政策の推進について (答弁：市長)

市はこの4月「掛川市協働による中小企業振興基本条例」を制定した。街中の活性化や市民みんなが潤うまちづくりの展開のためには、企業数のほとんどを占める中小企業や小規模事業所が元気になることが不可欠である。この条例を生かし、どのように施策を展開していこうとしているのかを伺う。

- (1) 条例に定められた振興会議をどのように組織し、今後の施策を推進していくのかを伺う
- (2) 中小企業・小規模事業所の人たちからのニーズ把握の方法を伺う
- (3) 小企業向け補助制度などの運用実態と今後の拡充を考えているかを伺う
- (4) 現在行なっている住宅リフォーム制度の申請数や事業額・経済波及効果などを伺う
- (5) 街中の活性化には住民ニーズに沿った事業が必要だと考えるがいかがか伺う

2 子育て世代の願いに応える待機児童解消政策のあり方について (答弁：市長)

保育園待機児童は、今年度当初、国定義46名と浜松市について県内ワースト2位となってしまう、潜在的待機児童を含めると161名となっている。子育て世代の切実な要望である待機児童解消について、来年度に向けての緊急施策及び、今後の中長期施策について伺う。

- (1) 子育て世代の要望を受け、来年度に向け待機児童を解消し、働きながら子育てをしていける環境整備を進めるための具体策を伺う
- (2) 市内企業主導型保育所の一カ所が4月に開園ができなかったが、この経緯及び市としての考えを伺う
- (3) 企業主導型保育所の推進をうたっているが、認可外保育所である企業主導型保育の質の確保について市の姿勢を伺う
- (4) 中長期的な掛川市の保育ニーズ・入園希望数などの把握の方法を伺う
- (5) よりよい保育環境を求める子育て世代の願いに応える認可保育園建設の予定について伺う

3 浜岡原子力発電所を巡る再稼働事前合意も含む周辺自治体協定のあり方について (答弁：市長)

茨城県東海第2原発周辺自治体では「原子力所在地域首長懇談会」ができ、再稼働合意条項も盛り込んだ協定が結ばれた。現在、全国で、立地自治体の合意だけで原発の再稼働が次々に行なわれている。浜岡原発安全等対策協議会理事会の席上、松井市長の提案で、安全協定についての学習会を行なっていくことが決定されたと伺っている。浜岡原発のいわゆる4市協定には、再稼働に関する合意条項はない。原発の再稼働のあり方について、市長の考えを伺う。

- (1) 浜岡原発安全等対策協議会で提案された「安全協定についての学習会」の内容について伺う
- (2) 再稼働の事前合意を安全協定の中にどう位置づけるべきと考えるか、市長の考えを伺う
- (3) 現段階で再稼働の同意の範囲をどのように考えているか、市長の見解を伺う
- (4) 市長として、再稼働についての市民合意の取り方をどのように考えているかを伺う

4 観光の拠点でもある駅周辺の草刈り等のあり方について (答弁：市長)

掛川駅周辺からお城や逆川土手などは、観光客をお迎えする掛川の顔ともいふべき場所であるが、街中に住む人も減り、維持管理が追いつかず、草が生い茂り、おもてなしの心が感じられない。市として責任を持った維持管理ができるように管理方法等の見直しが講じられないかを伺う。

- (1) 駅構内及び周辺の管理主体や管理方法を伺う
- (2) 街路樹の植え込みなどの管理方法を伺う
- (3) 駅前公園など市内の地区に委託している公園の維持管理が追いついていない現状があるが、市として責任を持った管理ができないかを伺う
- (4) 逆川土手の維持管理について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	富田まゆみ	質問の方式	(一問一答・一括)
------	---	----	-------	-------	-----------

1 健康増進のためのプログラムの体系化について (答弁：市長)

人生100年時代を迎え、健康寿命を延伸し生涯健康でいきいきと安心して暮らせることは、誰もが願うことである。本市では、第2次健康増進計画・第3次食育推進計画のもと様々な事業が実施され、個人・家庭での取り組みだけでなく、健康づくりを社会全体で支える仕組みが必要と強く感ずるところである。本市が行っている「かけがわ生涯お達人市民推進プロジェクト」を更に進めるために、より効率的で効果の高い体系づくりが必要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 健康増進の目的で、市内の健康長寿課、健康づくり課、地域医療推進課、スポーツ振興課、生涯学習協働推進課が様々な事業を実施しているが、どのようにすみ分けしているのか伺う
- (2) 各課で実施されている事業は、相互に連携し合う形となっているのか伺う
- (3) 事業体系を見直し、課を超えた効率のよい事業展開の実施が必要と考えるが、所見を伺う
- (4) より健康効果を生み、市民にとってわかりやすく参加しやすい事業の提供には、情報発信が必要と考えるが、所見を伺う

2 より効率的な健康増進のプログラムについて (答弁：市長)

お達人市民が多く集う掛川のまちをつくるため、各世代に応じた施策が行われている。生涯健康でいきいきと安心して暮らすためには、生涯を通じた健康意識を高め、それを実践し、生きがいを持って生活することが必要であると考え。特に、高齢になってからサルコペニア、フレイルといった状態にならないよう予防的な健康増進プログラムの作成・実施が大切であると考え。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 各世代に応じた健康教育・実践の取り組みを行った際、その効果検証を行っているのか伺う
- (2) 健康増進のためのプログラム、特に、食事や運動については意識づけ、実践体験、継続的な実施と習慣化（定着）することが大切であると考え。本市においてそうした取り組みや、働きかけが行われているかを伺う
- (3) 健康増進プログラムは、自主的な市民活動としての体制づくりを促すことで、地域の人材活用や生きがいを生む市民参加型のプロジェクトとなり得る。こう

した方法を進める方針について伺う

(4) 現在は実施されていない掛川市体育協会の地域通貨「いーさ」の検証と評価を行ったうえで、市民の健康増進プログラムへの参加を促すための健康マイレージ制度の導入を検討しているのか。また、どのような形で実施していくのか伺う

(5) 袋井市において実施されているマイレージ・ポイント制は、多くの市民が参加し社会に貢献するなど、市内循環の観点から考えてもよい方式と考えるが、市長の見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	20	氏名	鷺山喜久	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 中東遠総合医療センターにおける障がい児・者の歯科外来診療継続について (答弁：市長)

県補助による特殊歯科診療連携推進事業は、平成27年度から平成29年度まで3年間行われてきたが本年3月末をもって終了し、本年度は中東遠地区5市1町が費用負担をして実施している。しかし、来年度以降については、診療が継続されるかどうか何も決まっていないと聞いている。そこで、障がい児・者に対する歯科外来診療を継続すべきとの立場から市長の所見を伺う。

- (1) 中東遠総合医療センター内に障がい児・者の歯科外来がなぜできないのか伺う
- (2) 市として平成31年度以降、中東遠総合医療センター内での障がい児・者の歯科外来診療の継続を考えているか伺う
- (3) 本年4月に設立された「中東遠障がい者歯科医療研究会」の強化と診療継続のため、市としても県に対し要望を行う必要があると考えるが、市長の所見を伺う
- (4) 歯科医師の中には積極的に障がい児・者への診療を行いたい方がいるが、現状の報酬の少なさ等から取り組みに二の足を踏んでいる歯科医師が多いと聞いている。市としての援助がもっと必要と考えるがいかがか

2 小学生に「二宮金次郎」の歌を教えることについて (答弁：市長、教育長)

本年度から小学校で道徳が教科化された。掛川市では「かけがわ道徳」を実践している。この「二宮金次郎」という歌は、明治44年に作られた「徳目唱歌」である。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 市教育委員会作成の「なるほどなっとく金次郎さん」には「二宮金次郎」の歌が載っていないが、なぜ載せなかったのか伺う
- (2) 各学校で伺ったところ、「以前は歌っていた」学校もあったとのことだったが、現在は歌っている学校が無かった。なぜ歌うことをやめたのか伺う
- (3) この歌詞について、市教育委員会と市長は、「教育勅語を連想する等、今の時代に合っていない。」と認識しているのか伺う
- (4) 「新自由主義」の時代にこそ、あらためて報徳やこの歌詞について考えることが大切だと思うが、小学生にこの歌の歌唱指導をする考えはないか伺う

- (5) 「第2次掛川市総合計画」、「掛川市自治基本条例」、「掛川市議会基本条例」、「掛川市生涯学習都市宣言」等には、「生涯学習」や「報徳」の文字が数多く記されている。このことを踏まえ、あらためて「二宮金次郎」の詞と曲を小学校で学ぶことが必要ではないかと考えるが所見を伺う